日本語会話の教え方

~新时代日语系列~

日语教学法

【日】平山 崇 著

以会话教学为中心

理论简明

方法具体

注重操练

日语原味

南京大学出版社

~新时代日语系列~

日本語会話の教え方

日语教学法

【日】平山 崇 著

以会话教学为中心

理论简明

方法具体

注重操练

日语原味

南京大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语教学法 / (日)平山崇著. —南京:南京大学出版社,2011.2

(新时代日语系列)

ISBN 978-7-305-07958-0

Ⅰ.日… Ⅱ.平… Ⅲ.日语—教学法—教学研究—教材 Ⅳ.H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 256947 号

出版发行 南京大学出版社
社　　址 南京市汉口路 22 号　　邮　编 210093
网　　址 http://www.NjupCo.com
出 版 人 左　健

丛 书 名 新时代日语系列
书　　名 日语教学法
著　　者 (日)平山崇
责任编辑 田　雁　　编辑热线 025-83592123

照　　排 南京玄武湖印刷照排中心
印　　刷 南京紫藤制版印务中心
开　　本 787×960 1/16 印张 15.25 字数 270 千
版　　次 2011 年 2 月第 1 版　2011 年 2 月第 1 次印刷
ISBN 978-7-305-07958-0
定　　价 29.80 元

发行热线 025-83594756
电子邮箱 Press@NjupCo.com
Sales@NjupCo.com(市场部)

* 版权所有,侵权必究
* 凡购买南大版图书,如有印装质量问题,
请与所购图书销售部门联系调换

はじめに

近年、中国内の日本語学習者は年々増加しており、大学にも日本語学科を設置するところが増えています。日本語教師の私としてはこの上ない喜びです。

日本語教師が一人で成長するのは不可能です。同僚や先輩の授業を見学したり、あるいは自分の授業を見てもらって意見を聞くことが必要です。授業の失敗から学ぶことも多いと思います。その際には学習者が教師に成長の機会を与えてくれているのです。本もまた同様です。教授法についての本を読んで自分なりに消化すれば、知識を実際の授業に役立てることができ、教える技術をレベルアップさせることができます。

しかしそのような本は、現在の中国には非常に少数です。あっても理論重視で、具体的な教え方の説明には至っていません。そこで出版社の方との話し合いから、「実践を重視した日本語の教え方の本」の企画が浮かび、出版となりました。

本書にある教え方の基本スタイルは直説法です。つまり中国語を使わず、日本語で日本語を教えるやり方です。

学習者に対する直説法の最大のメリットは、

(1) 聴解力を向上させる
(2) 運用力を向上させる

です。授業中、教師が日本語で文型を説明したり、質問したりするので、学習者の日本語に触れる時間は自ずと長くなります。日本語で考えて発話するという習慣も身につきます。

しかし抽象的な単語など、日本語だけでは理解が難しいものもあります。そういう場合は中国語を使ったほうがいいでしょう。要は日本語を基本にし、必要に応じて中国語を使い、授業の効果や効率を最大限に高めることです。

本書は私のいままでの経験から得たことを、教授法の理論と実際の教え方を中心にまとめたものです。日本語教師を目指している方、現職の方のお役に立てれば幸いです。

2010年9月　平山崇

本書の構成

本書は3章から構成されています。

第1章の「基礎知識」では、日本語の文法や教授法、教材を簡潔に紹介しました。「授業の流れ」では、授業開始前の準備、また実際の授業が始まってから終了までの間にするべきことを解説しました。「授業の実際」では、授業中、教師がどのような言葉を使って学習者と交流をはかるのか、実例をもとに説明してあります。各項目の最後には、中国語による要点が書いてあります。

第2章は「基本事項の教え方」と「各文型の教え方」があります。両者合計45項目です。文型の教え方の構成は次の通りです。

● 基礎知識

文型についての基本的なこと、また授業のときに役立つ情報を紹介しています。

● 教え方

(1) 文型導入

＜状況＞

教えようとする文型が使われる場面や状況を設定しています。

＜導入＞

上の状況をもとにして、教師が学習者に質問したりして、授業を展開し、文型導入までもって行きます。

(2) 文型練習

文字カードなどを使って、文型が滑らかに言えるように練習します。

(3) 発展練習

文型が実際の会話の中で使えるように、会話練習します。

なお、「平仮名の清音」から「連体修飾」までは初級、それ以後は中級の文型となっています。

第3章は「各種教室活動」と「資料」があります。前者は、通常の授業以外で日本語を使った楽しい活動を紹介しています。課外活動としてご利用ください。後者は日本語授業に関する様々な資料を集めたものです。

本文中の専門用語、重要な単語、大切な部分は太字で書いてあります。

本書で示した会話授業の方法は、学校や会社などどこで教えるにも有効です。合わないところは適宜修正して授業に生かしてください。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目　次

はじめに …… i
本書の構成 …… ii

第 1 章
—基礎知識—
❶ 日本語教師とは …… 1
❷ 日本語概観 …… 4
• 日本語の品詞 …… 4
• 日本語の文 …… 16
❸ 外国語教授法の種類 …… 21
❹ 教室活動の種類 …… 24
❺ 教材・教具の種類 …… 30
—授業の流れ—
❶ 授業の準備 …… 34
❷ その他の準備 …… 36
❸ 授業の展開 …… 40
• 授業のはじめ …… 40
• 授業本番 …… 41
• 授業の終わり …… 48
❹ 授業後にすること …… 49
—授業の実際—
❶ 例文の確認、作成 …… 52
❷ 直説法の授業 …… 56
❸ 絵カードの使用例 …… 61
❹ 会話授業のポイント …… 66
コラム1　日本の日本語教師 …… 74

第 2 章
—基本事項の教え方—
❶ 平仮名の清音 …… 77

❷ 名詞文の肯定、否定、疑問 …… 83
❸ 数字 …… 85
❹ 曜日 …… 86
❺ 時間 …… 87

—各文型の教え方—

❶ 値段を尋ねる「いくらですか」 …… 90
❷ 名詞と名詞を結ぶ「の」 …… 92
❸ 名詞の並列の「と」 …… 93
❹ 同様の事柄を示す「も」 …… 94
❺ 喜欢の「好きです」 …… 95
❻ 物を指し示す「これ、それ、あれ」 …… 100
❼ 方向や場所を示す「中」「上」など …… 102
❽ 存在の「あります」 …… 103
❾ 存在の「います」 …… 107
❿ 動詞の活用 …… 109
⓫ 形容詞 …… 113
⓬ 家族の紹介 …… 115
⓭ 願望の「欲しいです」 …… 117
⓮ 動作の時間を示す「に」 …… 120
⓯ 動作の対象の「を」 …… 122
⓰ 動作の場所の「で」 …… 125
⓱ 伝聞の「そうです」 …… 128
⓲ 越来越～の「ば形～ほど」 …… 132
⓳ 過剰の「すぎます」 …… 136
⓴ 確信の「はずです」 …… 140
㉑ 親切心の「ましょうか」 …… 145
㉒ 他者に対する恩恵表現の「てもらいます」 …… 147
㉓ 依頼の「ていただけませんか」 …… 151
㉔ 許可の「てもいいですか」 …… 153
㉕ 同時の「ながら」 …… 156
㉖ 試行の「てみます」 …… 158
㉗ 物事が勢いよく進行する「どんどん」 …… 162
㉘ 受身の「(ら)れる」 …… 163

㉙ 推測、意見の「～と思います」 …… 168
㉚ 不必要の「～なくてもいいです」 …… 174
㉛ 付帯状況の「～ないで」 …… 176
㉜ 連体修飾 …… 178
㉝ ある活動ができる状況ではない「どころではありません」 …… 181
㉞ 出来事の起こる可能性が低い「そうにありません」 …… 182
㉟ 試行の強調「～だけ～てみます」 …… 184
㊱ 同じことをずっとする「ばかり」 …… 185
㊲ 決定の「ことにします」 …… 188
㊳ 嫌なことが避けられる「～ずにすみます」 …… 191
㊴ 付け加えの「～だけでなく～も」 …… 195
㊵ 一般的な考えを否定する「～とは限りません」 …… 199
コラム2　授業の失敗談 …… 202

第 3 章

―各種教室活動―

❶ 物品の説明 …… 205
❷ 指示と確認 …… 207
❸ 自由会話 …… 209
❹ 演劇 …… 211
❺ ラジオ番組制作 …… 214
❻ ゲーム …… 216

―資料―

❶ 日本人客との会話 …… 218
❷ 俳句・短歌の作り方 …… 220
❸ 単語表 …… 222
❹ 文型の整理 …… 223

参考文献 …… 230
あとがき …… 231

第１章

—基礎知識—

❶ 日本語教師とは

1. 日本語教授法を学ぶ意義

中国人の日本語学習には様々な形があります。列挙してみます。

1) 大学、大学院の日本語学科で学習する。
2) 大学、大学院で第二外国語として学習する。
3) 日系企業、または仕事上日本語と関わりのある会社で学習する。
4) 培訓班で学習する。
5) 家庭教師を雇って学習する。

これに加えて、動機もいろいろなものがあるでしょう。

1) 将来日本語関係の仕事に就きたいから。
2) 現在の仕事で日本語を使うから。
3) 日本に留学したいから。
4) 日本語に興味があるから。

教師はどこで教えるにせよ、また学習者がどのような学習動機を持っているにせよ、「学習者の日本語能力を向上させること」を実現しなければいけません。そしてそれには一定の理論や方法論が欠かせません。それを無視して、「大学で４年間日本語を学んだから」、または「能力試験１級に合格したから」といって日本語教師になるのは、考え方として不十分です。教師になるには教授法も身につけなければいけません。日本語は学問というより、他の言語と同じく、人と人との交流に使われる道具です。知識の伝達さえすればいい、というわけにはいきません。教師と学習者が日本語で直接交流しながら

学んでいくべきものなのです。ではどうやって授業をすればいいのか。どのように教えたらわかりやすいか。単語や文型をいかに学習者に正しく使わせるか。それに対する悩みは尽きないでしょう。教師は真剣であればあるほど迷うものです。その迷いに対し、一定の道筋と回答を示してくれるのが「日本語教授法」です。自分でゼロから模索するよりも、すでにある理論や方法論を学び取り入れたほうが遥かに効率的です。

しかし教授法はあくまでも授業の根底にあるものに過ぎません。マニュアル通りに授業をするのではなく、自分の経験、個性、性格、特技などを加味して、授業をアレンジして欲しいと思います。

2. 日本語教師の心構え

教師の心構えは個人によって違うと思います。ここで紹介するのは私の意見に過ぎませんので参考程度に見て欲しいと思います。なお、ここで言う日本語教師はすべて会話授業の教師を指しています。

まず、日本語教師は偉い存在ではありません。日本語教師は店員や運転手、そのほかの職業と同様に、お客さんにサービスを提供する存在です。教師にとって客とはつまり学習者です。学習者にわかりやすく、効率よく日本語を教えられるかどうかが職業的存在価値を決定します。例えば天文学や社会学の先生なら、自分の知識を学習者に一方的に伝達するだけで良いでしょう。権威的であったとしても特に問題はありません。しかし日本語教師は、扱うのが言語である以上、学習者とのコミュニケーションを重視しなければいけません。教科書から例文を抜き出して文法を説明するだけでは学習者は話せるようになりません。学習者が言葉の働きや意味を理解するには、ときに教師のジェスチャーが必要になるし、学習者のレベルに応じて会話したり、彼らの発言を引き出す力も重要になってきます。つまり日本語教師は、他の学問の教師と違い、権威的であってはいけないのです。

これを基本的立場として、以下に心構えを掲げたいと思います。

(1) 学習者との関わりの中から、日本語を引き出したり、文型を導入したりすること。一方的な授業にならないように気をつける。

(2) ソロ(学習者1人)、コーラス(学習者全員)、ペアワーク(学習者2人1組)、教師と学習者全員、など形態を使い分けて練習すること。一般的に活用練習の順番は、まずコーラスで練習し、それからソロとなる。会話練習の順番は、「教師と学習者全員→ペアワーク」となる。

(3) ただ教えるだけでなく、楽しい授業を心がけること。笑わせること、楽しませることにも、力を入れること。なぜなら楽しさは学習意欲を刺激し、学習内容が記憶にも残りやすくなるからである。

(4) 最初のうち、授業の休み時間は、学習者と積極的に交流すること。学習者との良い関係は授業にいい影響を与える。

(5) 日本語教育機関はたくさんあるし、日本語教師もたくさんいる。常にライバル意識を持ち、他の学校や教師よりも良い授業をするよう心がけること。

(6) 教科書に縛られず、本には出ていない単語や表現も必要に応じて紹介する。また中国と日本の時事ニュースを常に知っておく。

(7) 学習者から質問されたら、その場で答えるように心がける。難しくて答えられない場合でも、翌日には答えるようにする。これは教師の権威を守り、信頼感を維持するために必須である。

(8) ときどき学習者に対し、授業のスピードはちょうどいいか、何か要望や不満があるか、を聞いて、授業内容を改善していくこと。いくら教師が「いまの授業で問題ない」と思っていても、学習者側から見れば問題があることもある。学習者の意見をもとに、自分の授業を客観的に見つめ、よりよい授業を目指すこと。

＜要　点＞

➡日语教师的任务是提高学习者的日语能力。因此，教师应该学习日语教学法，寻求能够实现更好教学的思路和方法。说日语的能力和教日语是两码事，因此能够说得一口流利日语的教师也应该积极学习这种教学法。

➡在会话课时，教师必须要经常发动同学们进行会话练习。无论教师在黑板上写多少例句、解释多少语法，学生仍是不能够具备日语会话能力的。教师应该是能够与学习者积极交流、促进其开口说话的角色。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

❷ 日本語概観

日本の小学校、中学校、高校で、日本人生徒に教える日本語文法を、国文法（こくぶんぽう）と言います。一方、日本語を母語としない外国人に教える日本語を総括的に日本語教育と言います。国文法と日本語教育では、文法の捉らえ方および名称が異なるところがあります。日本語教育は、日本語を母語としない学習者が効率よく日本語を習得するために構築されたものです。動詞を例にとれば、「食べます」を「ます形」、「食べよう」を「意志形」というふうに設定しています。動詞の活用をひとかたまりとして捉え、形あるいは意味から名称を与えているのです。一方の国文法では、「食べます」は「連用形＋丁寧助動詞」、「食べよう」は「未然形＋意志助動詞」となります。学習者によってどちらが理解しやすいか、覚えやすいかは一目瞭然でしょう。

以下、日本語教育の視点から日本語を概観します。

◇日本語の品詞◇

1. 動詞

動詞は辞書形がウ段（う、く、ぐ、す、ず、つ等）で終わるものです。ア行からラ行まで、清音、濁音を含め、ほとんどの行のウ段に動詞が存在します。例えば、「使う」「行く」「泳ぐ」は、それぞれア行、カ行、ガ行です。動詞がない行は、ダ行、ハ行、パ行、ヤ行の四つだけです。

動詞は活用の種類によって三つに分かれます。

五段動詞：活用するとき語干が子音で終わります。また活用するときは、ａｉｕｅｏのすべての段を使います。「話す」「行く」「飛ぶ」のように「漢字一つ＋平仮名一つ」という形が多いです。五段動詞は子音語幹動詞、強変化動詞とも言います。

一段動詞：語幹が母音のｉまたはｅで終わり、さらに動詞の最後は「る」で終わります。「食べる」「起きる」「調べる」のように「漢字一つ＋平仮名二つ」という形が多いです。一段動詞は母音語幹動詞、弱変化動詞とも呼ばれます。

不規則動詞：「する」と「くる」の二つだけです。「する」は、「結婚する」「ドライブする」など名詞について動詞化することができます。

＊　＊　＊

表の１、２、３は動詞の活用一覧表です。上部のａ段やｉ段というのはすべ

て五段動詞の語幹のことです。また中止形は連用形とも呼びます。その他、注意点を下に挙げます。

(1)「行く」の「て形」「た形」は、それぞれ「行って」「行った」になりますが、これは例外です。本来「書く」「着く」など辞書形の語尾が「く」の動詞は、「ーいて」「ーいた」と変化します。

(2)「ある」の受身形、使役形、使役受身形は存在しません。また「ある」の「ない形」は、「あらない」ではなく、「ない」になります。

(3) 不規則動詞「くる」および一段動詞の可能形は、「ーられる」「ーれる」どちらも可能です。ですから「こられる」「これる」、「食べられる」「食べれる」となります。ただし、伝統的な文法では「られる」しか認めていません。

(4) 五段動詞の使役形は、「ーaされる」「ーaせられる」どちらも可能です。例えば「読む」は、「読まされる」でも「読ませられる」でも構いません。

<表 1>

		五段動詞語幹a段			
種類	**語幹**	**ない形**	**受身形**	**使役形**	**使役受身形**
五段動詞	yomー	読まない	読まれる	読ませる	読まされる
	ikー	行かない	行かれる	行かせる	行かされる
	arー	ない	※無し	※無し	※無し
一段動詞	tabeー	食べない	食べられる	食べさせる	食べさせられる
不規則動詞	su/siー	しない	される	させる	させられる
	ku/ko/kiー	こない	こられる	こさせる	こさせられる

<表 2>

i段		u段	e段		
ます形	**連用形**	**辞書形**	**命令形**	**ば形**	**可能形**
読みます	読み	読む	読め	読めば	読める
行きます	行き	行く	行け	行けば	行ける
あります	あり	ある	あれ	あれば	※無し
食べます	食べ	食べる	食べろ	食べれば	食べられる
します	し	する	しろ	すれば	できる
きます	き	くる	こい	くれば	こられる

<表 3>

o段		
意志形	**て形**	**た形**
読もう	読んで	読んだ
行こう	行って	行った
あろう?	あって	あった
食べよう	食べて	食べた
しよう	して	した
こよう	きて	きた

※「?」は不自然さを示す。

*　　*　　*

五段動詞、一段動詞、不規則動詞など動詞の種類に関わらず、動詞が受身形、使役形、使役受身形、可能形のいずれかに変化すると、それは「一段動詞」の性質を帯び、かつ更なる活用が可能となります。それを示したのが表4です。例えば「読む」の受身形「読まれる」は、「て形」が「読まれて」です。「食べる一食べて」のように一段動詞の活用規則が適用されているのがわかります。

<表 4>

活用	**辞書形**	**ます形**	**受身形**	**使役形**	**使役受身形**
受身形	読まれる	読まれます		※無し	※無し
使役形	読ませる	読ませます	読ませられる		※無し
使役受身形	読まされる	読まされます	※無し	※無し	
可能形	読める	読めます	※無し	※無し	※無し
活用	**ない形**	**命令形**	**ば形**	**可能形**	**て形**
受身形	読まれない	読まれろ	読まれれば	※無し	読まれて
使役形	読ませない	読ませろ	読ませれば	読ませられる	読ませて
使役受身形	読まされない	読まされろ	読まされれば	※無し	読まされて
可能形	読めない	※無し	読めれば		読めて

2. 形容詞

動詞にはたくさんの活用がありますが、それに次いで活用が多いのが形容詞です。国文法では形容詞の種類を「形容詞」「形容動詞」と分類していますが、日本語教育では「イ形容詞」「ナ形容詞」と呼称します。名詞の前に来るとき、イ形容詞は「い」の形で終わります。ナ形容詞は「な」で終わります。これがそれぞれの名称の由来です。

◇ 空には大きい雲が浮かんでいる。
◇ 黄山は有名な山だ。

また形容詞は文末に来て述語となり、主語の性質を述べることもできます。

◇ 彼は目が青い。
◇ 日本語教師という仕事は面白いが、授業の準備が大変だ。

イ形容詞は語末の「い」を「く」に変え、ナ形容詞は語末に「に」を加えることて、副詞となり動詞を装飾てきます。たたし日本語教育てはこれを副詞てはなくあくまても活用形として捉えます。

◇ 女が「お金、貸して欲しいの」と私に甘く囁いた。
◇ 父は80歳だが、毎日元気に働いている。
◇ 空は高く、青い。

形容詞の活用表をまとめたのか表5です。

＜表 5＞

種類	語幹	単語	て形	中止形	ば形
イ形容詞	atu－	熱い	熱くて	熱く	熱ければ
ナ形容詞	yuumei－	有名	有名で	※無し	有名であれば

中止形は主語の性質を二つ以上述べるときに使います。「て形」よりも書き言葉的です。

*　　*　　*

➡イ形容詞の語尾は必ず「い」ですが、ナ形容詞の中にも「い」で終わるものがあります。きれい(奇麗)、ゆうめい(有名)、ていねい(丁寧)、こうへい(公平)などがそうです。特に「きれい」は一般的に平仮名で書くので、イ形容詞と間

違えやすいです。

形容詞の「い」の前の発音に注目してください。イ形容詞は「狭い」「大きい」「軽い」「広い」のように、「－aい」「－iい」「－uい」「－oい」となっています。「－eい」だけがありません。反対に「－eい」は上記のナ形容詞すべてに当てはまります。

➡イ形容詞は「楽しい」「暑い」など、必ず漢字と平仮名で構成されます。漢字のみでイ形容詞を書くことはできません。しかしナ形容詞は普通、すべてを漢字で書くことができます。例えば、大丈夫、重要、独特、苦手、得意、心配、残念、大切、壮大、元気、必要などです。もちろん例外もあり、好き、嫌い、静か、は平仮名が混じっています。

➡元気、自由、健康、便利などは「元気な人」「自由な時間」というふうに、名詞の前に「な」を置くのでナ形容詞と分類されますが、名詞的な使い方もあります。

◇ どうしたんですか。元気がないですね。
◇ 健康は何よりも大切です。

「心配」もナ形容詞てすか、「心配する」て動詞にもなります。

➡ナ形容詞は外来語から作ることができます。ハンサム、ラッキー、ハード、ショックなどです。こうした働きはイ形容詞にはありません。

*　　*　　*

形容詞はその語彙によって二つに分類できます。

- 属性形容詞……文の主語の性質を表わします。
  (例)低い、大きい、赤い、白い、暗い、広い、狭い、有名、複雑、など。
- 感情形容詞……文の主語の感情を表わします。
  (例)悲しい、うれしい、痛い、眠い、好き、心配、不安、など。

3. 名詞

名詞は、先述の動詞、形容詞と異なり、活用しません。ここで問題になるのは、名詞とナ形容詞の違いです。例えば、ナ形容詞の単語は、有名、立派、暇などです。名詞は、学習者、中国、料理などです。どちらも語尾に平仮名がありませんから、「ナ形も名詞も共に活用できない」と考えられそうです。しかし日本語教育では、ナ形の単語を語幹と捉え、名詞はそれ自体で完結しているものと捉らえるのです。

「有名な人」では、「有名な」は「有名＋助動詞な」ではありません。「有名な」で活用の一形態とするのです。「真面目に働く」も同様に「真面目に」で一つです。一方の名詞は、「美人の秘書」なら、「美人＋助詞の」と捉らえます。

*　　*　　*

名詞が他の名詞を修飾するときは「の」を使います。これは名詞の大きな特徴です。

- 動詞……買った本　○　　買ったの本　×
- イ形……美しい女性　○　　美しいの女性　×
- ナ形……真面目な学習者　○　　真面目の学習者　×
- 名詞……アメリカの車　○

名詞のもう一つの特徴は、後ろに格助詞を伴うことができることです。詳しくは 6. 助詞を参照してください。

*　　*　　*

名詞は種類によって次のように分類されます。

- 普通名詞……同じ種類に属する事物を広く指すことができます。
  (例)車、本、果物、スポーツ、など。
- 固有名詞……人名や地名、国名、書名、建築物など、一つのみに与えられた名前です。
  (例)佐藤さん、アメリカ、パリ、東京タワー、万里の長城、など。
- 代名詞……人、物、場所、出来事の代わりに用いられる名詞です。
  (例)彼、彼女、これ、そこ、あの、など。
- 時名詞……時間を表わす名詞です。
  (例)今日、先週、来月、再来年、毎日、毎晩、など。
- 数量詞……数詞＋助数詞、で構成されるものです。
  (例)一人、2 個、三本、4 時間、5 月 15 日、6 階、七度など。
- 形式名詞……実質的な意味がなく、連体修飾語を伴って使われるものです。(例)はず、つもり、こと、ため、など。

4. 副詞

副詞は名詞と同様、活用しません。また、動詞、形容詞、他の副詞を修飾することができます。副詞は三つに分類されます。

- 様態副詞……動作や状態を表わします。擬声語、擬態語もこれに含まれます。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com